

私の言葉を、言葉のみを受け取っていただこうと、あえて派手な脚色は避けました。
また、長文・乱文につきまして、予めお詫び申し上げます。

提出課題 B

質問. 1 両親の就業について。

私の両親は、共働きです。いえ、共働きでした。両親は晩婚でしたので、二人とも既に定年退職を迎えております。母は公務員、父は電子メーカー勤務でした。最終的な役職はどちらも管理職でした。

あえて母を先に書いたのは、子供としての私の印象です。父が定年を迎えたのはもう10年近く前のことになるので、あまり仕事をしていた父の印象がなく、仕事＝母というイメージがあるのです。そんな母も3年前に定年を迎えましたが、「仕事」と聞いて無意識に母のことが先に浮かび、書き直そうかと思ったのですが、私の家では、仕事においても家事においても、父が母であり、母が父であり、その印象を正直に綴ろうと思います。

二人とも、大学はおろか高校も満足には通えず、特に父は戦前の生まれですので、義務教育がやっとだったそうです。また母は幼少期に両親を亡くして、上の兄弟に育てられ、就職先の面倒も見てもらったそうで、促されるままに公務員試験を受けたと申しておりました。

つまり両者とも、「仕事を選べる」ような状況ではなかったのです。その上、今すぐ自分の力で生きて行かなければならず、「就職しない」という選択肢もない。社会に出ることが、正に「生きること」と切実に直結して、自分の意志とは無関係に「終身雇用という認識でいた」とは言うものの、社会に出た頃は将来のビジョンを描くことなどできなかつたと申しておりました。

結果的に転職をせずに同じ職場に勤続し、定年を迎えたのも、父母共通です。転職は考えなかつたそうです。その理由は、やはり「時代」だと申しておりました。「転職」という概念が後ろ暗い印象よりもむしろ前向きな認識になってきた頃、既に職場では固い地位に就いていたので、給料に不満もないし、転職など考えたこともないそうです。もっとも両親とも、未だに“転職”という言葉にはやや否定的ではありますが。

「やりたいこと」、自己実現については考えなかつたのか聞いてみたところ、「万人からもてはやされるような才能を発揮することが、(私の言う)自己実現ではない」と言われました。「天職」とまではいかなくとも、「ここで自分にできることを最大限にこなすことが、ここで働く自分の誇りであった」と。その自分に不満を感じたことはなかつたそうです。

私は両親の考え、生き方に、半分賛成・半分反対です。

まず先に、何に反発を感じるのか。それは、「何をやりたい」などの意志よりも、「安定」が大前提だということです。

両親は、特に母は、子供をいい学校にやり、いい企業に入れることが子供にとっての幸せで、それが親の務めだと考えている節があり、そのために私たち兄妹は中学から私立へ通わせてもらいました。その段階で母の中では、「いい大学」へ入り、「いい会社へ就職する」ことが約束されたようなものでした。過程よりも結果ばかりを重視されました。ですから就職にあたって、とにかく「安定した職種」「食いつぶされるな」と言われ続けています。そのために大学まで出してやるのだから、と。

ですが、「社会に出るといことはお金を稼ぐことである」というのは、むしろ母よりも私の方が強く感じています。

御社のブログで、

「『お金を払って物事を学ぶ』学生に対し、『労働の対価にお金を得る』社会人。」

というフレーズを拝見し、驚きました。正に大学入学以前から、私が抱き続けていた概念だからです。

「学生のうちはどうがんばっても、逆立ちしても、世の中にとってはお金を使う消費者でしかない。しかし社会人になるということは、生産者としてお金を得る側に回るということなのである」

と。自身のブログでも、2年ほど前の記事に書き記してあります。そしてその考えは、今でも変わっていません。

社会人になるということは、自分の力で、自分が生きていくためのお金を稼ぎ出して、生活を、人生を支えなければいけない。望む望まざるとに関わらず、生きていくのに“お金”は必須であり、それを稼ぐことができないのであれば社会人として失格であると、両親よりも私の方が、そう感じているのです。結果が出せなければ胸を張れないのは、社会人としては当然のことです。

私は、働くことを人生にしたいのです。

「生きるためにお金を稼ぐ。お金を稼ぐために働く。」

それなら私は、「生きるために働く」ことを、「生きる」ことそのものにしたい。それが私の人生なのだと、胸を張りたいたいです。

私は御社でなら、それができると確信しています。それは、御社の企業理念だけでなく、そこに私の考え・能力が合わさって生まれる結果です。御社の求める人材に私が沿っていること、私の求める理念を御社がお持ちであること、これ以上理想的な出会いはないと思っております。

質問. 2 生涯必要とするお金について

1億2千万円。

豪華な生活は望みませんが、「欲しいものを手に入れ、おいしいものを食べ、遊び・趣味にも命をかけること」に関して私は、「我慢」はできても「諦めること」は決してできない人間です。どれもたかが知れている程度のものですが、この贅沢だけは、私にとって何物にも代えがたい一生の「宝物」であり、幸せの条件でもあります。

その幸福は、私が大切にしたいと考える、私の周囲の人間をも幸福にすると信じております。御社の理念である「関わる人間全てを幸せに」という項目も、私のポリシーに非常に一致しています。

物質的ではなく、精神的に豊かで幸福な人生のためには、この金額は必要です。

それを御社で「達成できるのか」ではなく、「達成する」のです。確実に達成すべく、御社という場所を提供していただくのです。

といて、漠然と「人よりも稼ぐ」とか「高いお給料がいただけるようにたくさん仕事をする」などと非現実的なことを言っているのではありません。私が御社のために自分にできる力を尽くすこと、それによって御社の業績を伸ばすことが、実現の近道だと考えております。それは一人の些細な努力かもしれませんが、努力の束を築くことは、私の得意分野です。

私は御社で、大きく分けて二つの力を発揮します。

一つは、仕事面での能力。課題を自ら発見し、改善に繋げ、提案し、行動し、実現する。社会人にとっては当然のスキルかもしれませんが、より高度にこなしていけるよう努めます。

そしてもう一つは、私の存在によって、御社を活気付けさせます。私の姿勢を、個性を、御社にとって最良の形でカスタマイズし、生かしていきたいです。また私も、隣の同僚の、先輩の、姿勢や個性に刺激を受けたいと思っています。御社では、人間同士の出会いの化学変化が業績向上に直結すると考えています。私は、私という人間自身を生かします。その意味では、御社に私という人材を提供するということかもしれません。

御社は私に、そう思わせるような企業であり、それが、私にとって御社でなければならぬ理由です。

質問. 3 苦境を勤め抜く覚悟。

「逃げない」。

私のスローガンです。

「仕事」というのは、平たく言ってしまうえば「お金」の流通であるとは言え、それをこなすのは「人」であり、その成果を受け取るのもまた「人」です。

既に挙げましたように、お金というのは生きることに直結するからこそ、**仕事は絶対の信頼関係の下に成り立つもの**であると思っています。耐え切れずに折れるということは、仕事を放棄するということであり、その信頼を裏切ることもあります。その時点で、これも既に挙げました私の幸せの条件に反しています。信頼を裏切ることほど、私にとって「苦境」と言える状況はないのです。私を信じてくれる人というのは、私にとって、命よりも大切な存在なのです。

私は「努力」という言葉を、「耐えること」であると考えています。どんなに辛いときも、苦しいときも、そんな今日を耐えて耐えて耐え抜いて、どうにかして自分なりの明日へ自力で踏み出すことが、一生懸命生きることであると思います。

その状況が自分を成長させてくれるのであると思うし、つまりは自分のためでもあるのです。

会社のために、お客様のために、自分のために、私は逃げずに「勤め抜き」、「努め抜き」ます。

質問. 4 「裏切る」

鈴木社長のおっしゃる「私は裏切る」とは、常に「想像を絶する」ことであると心得ます。

それはもちろん、いい意味で「現状に満足せず常に向上を志す」という姿勢の表れであり、そのためには誰もが想像しうる枠を超えなければという考えには非常に共感します。

一方で、直面する苦境も、そして提示される課題も、想像を超越しているという意味も受け止められます。もしかしたら、詳細として強いられる努力としては、そちらの意味の方が大きいかもしれません。

ですが、私は信頼している人から裏切られることは、怖くはありません。いえ、言い換えるなら、信頼している人になら、何をされても「裏切られた」という落胆は抱きません。それが私に対する期待の表れであるのなら、全力で応えるのみです。

それに対して「社長を裏切る」とは、私が社長を見限ることと承知します。

それは絶対にあり得ません。

私は、私を信頼してくれた時点で、無条件で私もその人のことを信頼します。そしてその信頼を裏切ることは、私にとって命を捨てることと同義です。脚色で申し上げているつもりはありません。

私にとって怖いのは、「裏切られること」ではなく、「信頼を損なうこと」なのです。つまり、御社が、社長が、私のことを信頼して下さる限り、騙されても裏切られても、私からは決して裏切りません。

絶対の信頼関係の上に成り立つ「裏切り」は、時には互いのためでもあると心得ます。

提出課題 C

御社から聞こえて来る声——それは、就職サイトや御社の採用ページであっても、企業紹介であっても、ブログであっても——は、実に一貫していて、非常に素朴かつ正直で、とても強い共感を覚えています。

そして驚愕しているのは、私が自分の人生を構築していくに当たってこれまで導き出してきた答えに、ぴったりと一致する点があまりに多いということです。

既に挙げた、「学生(消費者)としてのこれまでと社会人(生産者)としてのこれから」という概念の他に、「変えられない過去に対して、未来はあらゆる可能性を孕むものである」という点も、私が普段から常に意識していることであり、もう10年近く慣れ親しんできたポリシーでもあります。

私の座右の銘は、「過去の不幸な事実は、未来で幸福な真実になる」です。

「変えられない過去」というのは、不幸な事実はいつまで経っても不幸なままだ、というわけではありません。その時点ではいかに辛く苦しい事実であったとしても、その事実だけは変えられなくとも、その後の未来で自分がいかに努力し、身を振るかによって、その事実はいくらでも幸福へ転じうる、つまり、「いい思い出」にできるのです。

だからこそ大切なのは、事実として下した決断の内容よりも、いかに自分にとって幸福な真実にするべく行動・尽力するかであると信じています。過去に遡って努力することはできなくとも、その後悔を原動力に、これからの未来はいくらでもメイクできる、無限の可能性を秘めている。私はそれを、身をもって実感して来ました。

仕事に人生を賭けることに関して、ここまで企業理念と自身の考えが一致していた企業に出会ったことはありません。御社になら、信頼を、人生を、預けたいと心から思えるのです。

一方で私の側が、御社にとって信頼に値する人間になれるだろうか、との考えの下、書類の提出をここまで悩みました。「裏切る」ことについて、考え抜きました。

私は少し、行動する前に考え過ぎるきらいがあります。その一方で、行き当たりばったりで生まれた出会い、結ばれたご縁、生じた化学変化を、とても貴く感じていることも事実です。そこに生まれた偶発的な縁をも心から大切にしようとするあまり、考え過ぎてしまうのかもしれない。

御社とのご縁を私は、裏切らず、大切にできるのか。

答えは、「YES」です。

私は自分のために、御社に尽くします。